

8月24日から始まった2学期は、感染症対策を行い、行事を精選・縮小した学期でした。特に運動会を縮小した「体育授業発表会」では、数少ない全校生徒が一堂に会する場面として、3年生が先頭に立ち、一生懸命に行事に取り組む姿を見せてくれました。また、面接練習でも新型コロナ感染症について質問した時、その回答は感染してしまった人や病院で頑張っている人たちの気持ちになり応援します。人を傷つける言葉や態度をとらないようにします。とたいへん立派に答えてくれました。世間にはコロナウイルスの感染者や医療従事者への誹謗中傷があるようです。感染した人は自分から感染しよう思ったのでしょうか。治療にあたっている人は必ず感染するのでしょうか。自分の考えだけを主張することによって他の人を傷つけています。自分にはどうしようもできないことで、傷つけられている人がたくさんいます。この面談時の回答は、12月10日の「世界人権デー」12月4日～10日までの人権週間でした、まさに人権に配慮した明快な答えでした。

それでは人権とは何でしょうか？全ての人が生まれながらにもっている、幸せに生活する権利のことです。幸せの基準は人それぞれ違いますから、自分の幸せを押し付けるわけにはいきません。また、自分の考えだけを主張することによって、他人を傷つけてしまうこともあります。自分にはどうしようもできないことで、傷つけられている人が大勢います。他人への思いやりとか、人とひととの違いや優れているところをお互いにながめ合うことが大切です。

令和2年はすばらしいニュースもありました。清瀬市の名誉市民である彫刻家の 澄川 喜一さんが文化勲章を受章されました。東京スカイツリーのデザインの監修をした方です。東京スカイツリーの建設場所は大正時代に関東大震災があり、昭和には第2次世界大戦中の3月10日に東京大空襲で多くの方が犠牲になった場所です。だから澄川さんは「東京スカイツリーを震災復興のシンボルにしたい、未来の平和を祈る世界一の塔にした」と考えたそうです。建設場所の敷地が狭かったので、地震に強い奈良にある法隆寺の五重の塔の「心柱（しんばしら）」というつくりを参考にしたそうです。正三角形の土台に柱を三本建て、上に行くほどだんだん丸くなり、下の方の柱が反っていて、他の場所から見るとタワーが傾いたように見えるように美しい姿を考えたそうです。さらに、パイプでできていますからきれいな青い影が見えるように、照明がうまく反射する日本の藍色を使ったそうです。澄川 喜一さんの彫刻の作品は、けやき通りやけやきホールにもあります。是非、鑑賞してみてください

令和2年は感染予防のための外出禁止や経済活動の停滞など、私たちの日常は大打撃を被りました。学校に関して言えば、臨時休校や行事・部活動の休止などショッキングな出来事が続きました。令和2年は忍耐の年になりました。その中、皆さんはコロナ感染症に対する意識をしっかりともち、立派に学校生活を過ごすことができました。

令和3年は皆さんが大きな飛躍ができるよう、一人一人が主体的に行動し、常に夢や希望をもち、前へ向かって努力することができる年になることを期待します。